

上智大学

DEI&B

ハンドブック

～互いを尊重し合える場所を目指して～



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

1. はじめに.....	4
2. 上智大学DEI&B推進宣言とダイバーシティ・サステナビリティ推進体制	4
2-1. 上智大学DEI&B(ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン&ビロッキング)推進宣言 .	5
2-2. ダイバーシティ・サステナビリティ推進室の役割(ミッション)および体制.....	6
(1)ダイバーシティ・サステナビリティ推進室の役割	6
(2)本学ダイバーシティ・サステナビリティ推進室について	6
(3)本学ダイバーシティ・サステナビリティ推進室の沿革.....	6
3. ジェンダー	7
3-1. 上智大学男女共同参画宣言	7
3-2. ジェンダーに囚われない環境づくりに向けた本学の歩み・取り組み	8
(1)学生向け	8
1. 教育・研究	8
(2)学生・教職員向け	9
1. キャンパス生活 ー学内設備ー.....	9
2. その他 ージェンダーに左右されない活躍のヒントー	10
4. LGBTQ+	10
4-1. LGBTQ+に関する本学の制度・取り組み	10
(1)学生向け	10
1. 教育・研究	10
2. キャンパス生活	11
(2)教職員向け	11
1. 通称名の使用について	11
(3)学生・教職員向け	12
1. キャンパス生活 ー学内設備ー.....	12
5. 多文化共生	13
5-1. 多文化共生に向けた本学の制度・取り組み	13
(1)学生向け	13
1. 教育・研究	13
2. キャンパス生活	13
(2)学生・教職員向け	14
1. キャンパス生活 ー学内施設、サービスー	14
6. 障害・健康	15
6-1. 障害・健康に関する本学の歩み・取り組み.....	15
(1)学生向け.....	15
1. 教育・研究	15
2. キャンパス生活	16
(2)学生・教職員向け	17
1. サービス.....	17
2. キャンパス改善	17



7. 育児・介護	18
7-1. 育児・介護に関する本学の制度・取り組み	18
(1) 学生向け	18
1. キャンパス生活	18
(2) 教職員向け	18
出産・育児に対する制度・取り組み一例	18
介護に対する本学の制度・取り組み一例	18
その他の制度・取り組み一例	19
8. 世代	19
8-1. 世代に関する本学の制度・取り組み	19
(1) 学生・教職員向け	19
1. 活動・イベント	19
9. DEI&Bに関する横断的な取り組み	20
(1) 学生・教職員向け	20
1. 活動・イベント	20
2. その他取り組み	21
10. 巻末	21
10-1. 用語・マーク集	21
(1) 性的指向およびジェンダーアイデンティティの多様性について	21
(2) 障害の有無にかかわらず相互に人格と個性を尊重するために	22
10-2. お問い合わせ窓口一覧	25
(1) ジェンダー、LGBTQ+に関わる問い合わせ	25
(2) 多文化共生に関わる問い合わせ	26
(3) 障害・健康に関わる問い合わせ	26
(4) 育児・介護に関わる問い合わせ	26
(5) 世代に関わる問い合わせ	26
(6) ハラスメント相談	26
(7) 心身に関する相談	27
(8) その他	27
10-3. 学内の情報に関する資料、WEBサイト	27
(1) ソフィアーズ・ガイド(PC版) ソフィアーズ・ガイド(スマホ版)	27
(2) ダイバーシティ・サステナビリティ推進室公式HP	27

注釈:本ハンドブックに記載されている制度は、雇用形態や勤務条件により適用範囲が異なる場合がございます。お手数ですが、適用の有無については各自でご確認いただけますと幸いです。



1. はじめに

本学では、「個人がその個性と能力を十分に発揮できる社会の実現」を目指し、マイノリティ支援やワーク・イン・ライフ支援など、多様性を尊重するさまざまな取り組みを行っています。育児・介護支援、また女性や多様な背景を持つ方々の活躍を推進する研修の実施もその一環です。すべての構成員が自分らしく活躍できるコミュニティを築き、そこから多様性に富む社会において貢献する人を育成していくことは、本学に関わるすべての者が共有する重要な目標です。

このハンドブックは、学生・教職員＝「ソフィアン」一人ひとりが自分の居場所だと実感できるとともに、安心して学び、働ける環境をつくるための、制度・取り組みや基本的な考え方、さらには上智大学におけるこれまでの歩みを示したものです。

ここでは、ダイバーシティ・サステナビリティ推進室が課題解決に取り組むうえで注目している、6つのカテゴリーに分けて情報を記載しています。しかし、ダイバーシティをこれら表層の属性に限定せず、外面から判断しづらい、経験や価値観、思考などの個が持つ深層のダイバーシティを尊重し、活かし合える人・組織・社会づくりを、目指していることを念頭に置いて、読み進めていただければと思います。

本ハンドブックを通じて、「違い」を理解し尊重し合う姿勢を育み、豊かで創造的な学びの場の構築に繋がっていきましょう。

2. 上智大学DEI&B推進宣言とダイバーシティ・サステナビリティ推進体制

あなたは「DEI&Bが進んでいる環境」と聞いてどのような状況を思い浮かべますか。重要な概念であることは認識していても、どこか漠然とした理解にとどまっている方も多いのではないのでしょうか。昨今、あらゆる人が暮らしやすい環境づくりのために、「DEI&B」を推進する動きが、社会全体で活発になっています。

世代や国籍、バックグラウンドも異なる人々が集まる大学においても同様に、推進に向けた理解や対応が求められています。では、上智大学のなかで考えてみると、どのような状態がDEI&Bを体現していると言えるのでしょうか。それを明文化したのが、次の「上智大学DEI&B推進宣言」です。



2-1. 上智大学DEI&B(ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン&ビロング)推進宣言



上智大学 DEI&B(ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン&ビロング)推進宣言

上智大学は、キリスト教ヒューマニズムに基づく人間教育を行っており、学生・教職員それぞれが基本的人権を尊重し、人格の尊厳を認め合い、責任ある行動と謙虚な心構えをもって、世界の発展に奉仕する者となることを目指してきました。今後も、「他者のために、他者とともに(For Others, With Others)」という確固たる教育精神を指標として、必要かつ合理的な取り組みを通じ、誰もが活躍の機会を得られる社会、互いを認め合いながら共に生きる社会の実現に向けて行動していきます。

2025年8月
上智大学学長 杉村美紀

1. ダイバーシティ(多様性) Diversity

上智大学は、人種・民族、国籍、年齢、性別、セクシュアリティ、宗教、身体的特性などの相違によって相手の尊厳を傷つける行為や差別を許容しません。また、経験、価値観、考え方など、各人の持つ多様性が尊重される場であり続けます。

2. エクイティ※1(公正性) Equity

上智大学は、構成員に対して、さまざまな情報や機会へのアクセスを可能にし、その能力を最大限に発揮できる場となることを目指します。また、教育・研究・就労等において差別的な社会構造の是正に取り組みます。

3. インクルージョン(包摂性) Inclusion

上智大学は、構成員一人ひとりの声に耳を傾け、心理的安全性を担保しながら、さまざまな価値を共創し、共生・共存できる場となることを目指します。そして、包摂性のある社会形成に貢献する人を本学から輩出していくことに努めると同時に、こうした想いを同じくする人々とともに、共生社会の実現に貢献します。

4. ビロング※2(帰属感) Belonging

上智大学は、すべての構成員が尊重され、心理的な安心感や受容感をもって本学に帰属することができ、臆することなく自らの考えや懸念を表明できる場となることを目指します。また、それによって個の潜在能力を最大限に引き出し、新たな価値創造につなげる組織であり続けます。

※1

エクイティ(公正)は個々の差異や状況に応じて提供するリソースを調整し、すべての人が同じ機会や環境を得られるようにすることです。一方、イクオリティ(平等)はすべての人に同じリソースを提供することを指しますが、それが機能するのはスタート地点が同じ場合に限られます。

※2

ビロング(帰属感)とは、一人ひとりが所属している場に対して、「帰属意識」や「自分の居場所がここにある」と安心感を得られている状態を指します。



2-2. ダイバーシティ・サステナビリティ推進室の役割(ミッション)および体制

(1)ダイバーシティ・サステナビリティ推進室の役割

上智学院ダイバーシティ・サステナビリティ推進室はカトリックの精神、および教皇フランシスコ回勅「ラウダート・シ」やイエズス会のUAPs(4つの方向づけ)、さらには国連のSDGsに基づき、学内における多様性の促進に取り組んでいます。2009年に始まった女性研究者支援プロジェクトを契機に、本学は時代の変化に応じたダイバーシティのあり方を模索し続けてきました。

今後ともこれまでの取り組みを礎とし、本学に関わる人々がその多様な価値観や背景を尊重しながら、安心して学び・働き・活躍できる環境の整備に努めてまいります。また国際性を重んじる本学の理念に基づき、学内外の変化にも柔軟に対応しながら、ダイバーシティ推進のさらなる発展を目指してまいります。

(2)本学ダイバーシティ・サステナビリティ推進室について

上智学院では、2009年に女性研究支援室、その後、2012年に男女共同参画推進室が設置され、2017年にダイバーシティ推進室に改称されました。2021年にはサステナビリティ推進本部が設置されました。ダイバーシティ推進室とサステナビリティ推進本部は統合され、2024年からダイバーシティ・サステナビリティ推進室となりました。

上智学院のダイバーシティ関連の活動は、2009年の「グローバル社会に対応する女性研究者支援」プロジェクトから始まり、2011年には「男女共同参画推進宣言」を制定した後、当初は男女共同参画推進室が中心となり展開していました。その後、多様性の概念の広がりに合わせて、ダイバーシティ推進室として改組し、支援対象者の拡大と制度充実を進めてきました。

一方、サステナビリティ推進本部は、エネルギー効率の向上やキャンパス環境の整備などを推進するため、部局横断型プロジェクトとして2021年にスタートしました。独自の試みとして、学生職員を雇用し、イベント企画、施設整備、広報活動などに関わってもらうことで、学生、教員、職員の協働を実現しています。

(3)本学ダイバーシティ・サステナビリティ推進室の沿革

2009年:「グローバル社会に対応する女性研究者支援」プロジェクト開始、女性研究支援室設置

2011年:「男女共同参画推進宣言」を制定

2012年:男女共同参画推進室を設立

2017年:ダイバーシティ推進室に改組

2021年:サステナビリティ推進本部を設立

2024年:ダイバーシティ・サステナビリティ推進室に改組



3. ジェンダー

3-1. 上智大学男女共同参画宣言

1999年に成立した男女共同参画社会基本法は、男女共同参画社会の実現を「21世紀に我が国社会を決定する最重要課題」と位置づけています。この法律のもとではすべての人が、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮して活躍し、あらゆる分野において対等に参画する機会が確保される社会を実現することが求められています。

上智大学は、キリスト教精神を基底とし、真実と価値を求めて人間形成につとめ、文化の発展と人類の福祉に寄与することを目的として、1913年に設立されました。設立時は男子校としてスタートしましたが、1958年には男女共学となり、それ以来、地球を舞台として様々な分野で活躍する国際人を育成してきました。卒業生が、国内はもとより、国際社会においても高く評価されていることは、大学が飛躍的に発展していく原動力となっております。

上智大学は、世界中から多様な人材が集う、グローバル化社会にふさわしい教育・研究環境を整備するとともに、「他者のために、他者とともに」というキリスト教的価値観に基づく教育精神を踏まえ、全人教育を土台に、貧困と平和構築の問題に関わる「社会的なチャレンジ」、持続的発展と環境の問題に関わる「エコロジカルなチャレンジ」、自分の人生を自らが選び取れるよう必要な資質と力量を育む教育の問題に関わる「文化的なチャレンジ」、人間性と生き方そのものの問題に関わる「倫理的なチャレンジ」を柱に、更なる大学の発展を目指します。

以上のような特長を活かしたうえで、上智大学は、男女共同参画社会の形成における社会的責任を自覚し、個人がその個性と能力を十分に発揮できる社会の実現のために主体的役割を果たすことを宣言します。また、上智学院および上智学院が設置する学校においても同様の方針を推進いたします。

<基本方針>

1. 男女共同参画の視点に立った教育・研究組織及び就業体制の確立
2. 教育・研究及び就業と家庭生活の両立支援
3. 学生・教職員に対して、男女共同参画に関する啓発活動の推進
4. 大学運営の意思決定における男女共同参画の実現

2011年1月 上智大学長



3-2. ジェンダーに囚われない環境づくりに向けた本学の歩み・取り組み

(1) 学生向け

1. 教育・研究

■理工学研究科の女性研究者に対するサポートは…

本学では、2012年度に女性研究者グローバル育成奨励賞が創設されました。これは理工学研究科の女子学生を対象に、国際的に活躍する研究者として成長することを支援する制度です。世界的に見ても日本は自然科学の女性研究者が少ない現状があるからです。国際学会、学術論文などにおいて研究実績をあげ、研究室の指導教員から推薦を得た学生が応募することができます。

【窓口】ダイバーシティ・サステナビリティ推進室

■留学先で不安に感じることは…

留学先の寮や大学等で、ジェンダーに起因したトラブルへの対策はされていても、不安を感じる学生も多いと思います。

グローバル教育センターでは、留学中の「性」に関わる疑問や性暴力に合わないための対策など、「留学先で不安を感じる」という声が多くあがるトピックに関して、知識や情報を得られるリンク集の提供や、留学中の危機管理サービスの利用方法について留学説明会などで事前説明を行っています。質問がある場合には、窓口時間内にいつでも相談できますので、お気軽にお問合せください。

また、留学先で不安に思う場面が生じた際にも、上述の危機管理サービスを通して24時間サポートを受けられる体制が整っています。

【窓口】グローバル教育センター 2号館1階



(2)学生・教職員向け

1. キャンパス生活 ―学内設備―

■OiTrとは？キャンパスのどこにある？

四谷キャンパスでは、一部の女性用トイレおよび「みんなのトイレ」※において、生理用ナプキンを無料で提供するサービス「OiTr(オイテル)」が導入されています。専用アプリを入れたスマートフォンをディスペンサーにかざすと、生理用ナプキンが1枚無料で出てきます。
(<https://www.oitr.jp/>)

【四谷キャンパス「OiTr」設置場所】 ※2025年6月1日現在

- 2号館1階 女性トイレ(2台)
- 2号館4階 女性トイレ(4台)
- 2号館5階 女性トイレ(2台)
- 6号館1階 女性トイレ(2台)、みんなのトイレ(1台)
- 6号館4階 女性トイレ(4台)、みんなのトイレ(1台)
- 9号館B1階 アクティブ・コモンズ女性トイレ(2台)、みんなのトイレ(1台)
- 11号館1階 女性トイレ(2台)

【窓口】環境整備グループ

■Mew Dispenserとは？キャンパスのどこにある？

目白キャンパスでは、全女性トイレの洗面台付近において、生理用ナプキンを無料で提供するサービス「Mew Dispenser」が導入されております。

【目白キャンパス「Mew Dispenser」設置場所】 ※2025年6月1日現在

1号館

- 地下1階 女子トイレ(2台)
- 1階 女子トイレ(2台)
- 2階 女子トイレ(2台)
- 3階 女子トイレ(2台)
- 4階 女子トイレ(1台)

2号館

- 1階 女子トイレ(2台)
- 2階 女子トイレ(2台)
- 3階 女子トイレ(1台)



2. その他 –ジェンダーに左右されない活躍のヒント–

■ロールモデル集

本学では、2009年からロールモデル集を発行しています。
女性研究者や男性教員のライフストーリー、および学生数の男女差におけるマイノリティに
焦点を当てた学生・教職員の声を紹介しています。

最新版の第12集(2022年発行)では、「ソフィアのダイバーシティ～上智の女性リーダーシップ～」と題し、本学に携わる/携わった経験のある女性教職員や在学生、卒業生など、さまざまな視点で女性リーダーとしてのロールモデルを紹介しています。在学生だけでなく、キャリアを積む教職員にとっても、活躍の場を広げるうえで大きな一助となるトピックばかりですので、是非ご一読ください。

ロールモデル集ⅩⅡ:ソフィアのダイバーシティ～上智の女性のリーダーシップ～

[日本語版](#)

[英語版](#)

過去のロールモデル集を閲覧したい方は、下記窓口にお問い合わせください。

【窓口】ダイバーシティ・サステナビリティ推進室

4. LGBTQ+

4-1. LGBTQ+に関する本学の制度・取り組み

(1)学生向け

1. 教育・研究

■授業での対応

教員が使用する受講者名簿には、授業運営上必要と判断される場合に限り、性別を記載しています。体育実技における更衣場所の区分、ゼミ合宿等での宿泊施設の部屋割り、名前の呼び方などが該当します。

【窓口】学事センター 2号館1階

■留学時や国際研修参加時の対応

交換留学や各種研修など大学が提供するプログラムへの参加に際し、不安や質問がある場合は事前にご相談ください。

【窓口】グローバル教育センター 2号館1階



2. キャンパス生活

■性別情報は収集される？

性別情報は個人の尊厳や価値観に深く関わるものであり、必要性を十分に検討したうえで合理的な理由がある場合に限り収集・利用します。

収集の際は可能な限り任意回答とし、「男性／Male」「女性／Female」「男性・女性どちらにも当てはまらない／Non-binary」「無回答／Not reveal」から選択できるようにします。研究等の事情に応じて、自由記述や他の表現も可能です。（法令等に基づき、本学で変更ができない場合を除く）

■大学が発行する証明書には性別が記載される？

大学が発行する以下の証明書には性別の記載はありません。（発行部署は＜＞内に記載）

- 在学証明書、成績証明書、卒業・修了見込証明書、卒業・修了証明書＜学事センター＞
- 学生証＜学事センター＞
- 学割証＜学生センター＞
- 健康診断証明書＜ウェルネスセンター＞

■戸籍上の性別を変更したときは・・・

学籍上の性別は、戸籍上の性別と同一となります。戸籍上の性別に変更があった場合には、その変更を証明する書類を添えて窓口にて申請してください。申請後、学籍上の性別情報が更新されます。

【窓口】学事センター学籍担当 2号館1階

■学籍上の氏名を変更したいときは・・・

性別に違和感を持つ学生は、学籍上の氏名変更について相談が可能です。変更後の氏名は、大学が発行する各種証明書に記載されます。学外で証明内容の説明が必要な場合には、大学が説明文書を発行することができます。

【窓口】学事センター学籍担当 2号館1階

■集団で受ける健康診断に抵抗があるときは・・・

定期健康診断は、個別で受診することも可能です。個別での受診を希望する場合にはウェルネスセンター（健康支援）にご相談ください。

【窓口】ウェルネスセンター（健康支援） ホフマン・ホール2階

(2)教職員向け

1. 通称名の使用について

教職員がお互いの多様性を尊重し合える職場環境づくりの一環として、通称名の使用がみとめられています。婚姻や国籍、学術研究上の事情などにより戸籍名以外の氏名を使用したい場合、所定の申請手続きを経て通称名の使用が可能です。承認された通称名は、名刺や学内文書、教育研究情報データベースなどで使用できます。



(3)学生・教職員向け

1. キャンパス生活 – 学内設備 –

■みんなのトイレ

四谷キャンパス、目白キャンパス内には誰でも利用できる共用トイレ、「みんなのトイレ」が設置されています。

【四谷キャンパス内設置場所】

[アクセシビリティマップ](#)

【目白キャンパス内設置場所】

- 1号館1階
- 2号館1階

《Breeze Loungeを知っていますか？》

2024年9月、四谷キャンパス2号館4階が「Breeze Lounge」として、リニューアルされました。その一部として、個室完結型トイレが3台増設され、みんなのトイレとしての選択肢が増えました。あらゆる人が利用したいと感じる空間になるよう、設置方法や照明・素材、空室状況の表示などに工夫が施されています。

詳細は以下の記事からご覧いただけます。

- ・ [「Breeze Lounge」がオープンしました！](#)
- ・ [2号館4階「Breeze Lounge」内にどなたでもご利用いただけるトイレが設置されました](#)

本学では、こうした取り組みを発端として、今後のトイレやあらゆる施設の在り方を検討していきます。

■更衣室

授業で使用する更衣室は、男女別となっています。課外活動など授業以外で使用可能な更衣室は、以下の3か所です。

- 体育館B1階 柔剣道場(男性のみ)
- 体育館1階(女性のみ)
- ホフマン・ホール・トレーニングセンター(男女別)

現在のところ、性別によらず使用できる更衣室や個室の更衣室はありませんが、着替え台のある「みんなのトイレ」は複数設置されていますので、こちらをご利用ください。

【着替え台のある「みんなのトイレ」設置場所(四谷キャンパス)】

- 2号館1階、4階
- 3号館B1階～5階
- 4号館6階
- 6号館2階～6階、17階



5. 多文化共生

5-1. 多文化共生に向けた本学の制度・取り組み

(1) 学生向け

1. 教育・研究

本学では22の言語を学ぶことができます。言語学習において、どのような環境が揃っているのでしょうか。ここではその一部をご紹介します。

- 学科科目、全学共通科目(語学科目含む)
- Language Learning Commons(LLC)

書籍の貸し出し・DVDの視聴、自宅のできるE-learning教材の提供、言語学習アドバイザーによる相談など、多彩なサポートが行われています。

留学生や上級生による少人数制の会話レッスン「外国語コミュニケーショングループ」や、ランチタイムに交流できる「Language Exchange」も行っていますので、正規生・留学生問わず、是非ご活用ください。

6号館1階（平日10:00～17:00 ※授業休業日は閉室）

利用方法や開催日程などの詳細はMy Sophiaからご確認ください

(My Sophia> 学び・教育 > 語学教育・LLC)

【窓口】言語教育研究センター 6号館6階

2. キャンパス生活

■学籍上の氏名に関する取扱い

本学では「漢字氏名」「カナ氏名」「英字氏名」の3種を使用しています。

日本国籍の学生は漢字氏名を、外国籍の学生は英字氏名を用いることが定められています。(多重国籍は日本国籍として扱います)。希望により旧姓などの通称名も使用可能です。

また、外国籍でも住民票等に記載の漢字氏名を通称名として使える場合があります。

【窓口】学事センター学籍担当 2号館1階

■留学生の学生生活サポートと本学学生の関わり

● Global-Network(GL-Net)

学生による国際交流団体Global-Network(以下GL-Net)は、グローバル教育センターと連携し、日本文化を紹介するイベントや日帰り旅行(ワンデートリップ)などを実施しています。

メンバーは随時募集しておりますので、参加をご希望の方はGL-NetのInstagramをご確認ください。



● 交換留学生サポーター制度

交換留学生として受け入れる留学生と交流をしながら、日本での生活に必要な手続きをサポートする、日本語を教える、上智大学のキャンパスライフに関する情報を提供するなどの手助けをするボランティア活動です。

新規登録は随時、学期ごとの活動サポーターは、年に2回募集しています。募集が開始となりましたら、My Sophiaにてお知らせします。

(My Sophia> 学び・教育> グローバル教育センター)

【窓口】グローバル教育センター 2号館1階

● Sophia Student Integration Commons(SSIC)

教職員と学生が協働し、留学生と日本人学生のコミュニケーション促進を目的として、11号館1階に開設されたのがSSICです。

SSIC内で開催するものに限らず、学外での体験型イベントなど、2024年度には約24件のイベントが開催されました。

各イベントの詳細は「FIND SOPHIA」にて公開され、申し込みはMy Sophiaから可能です。

(My Sophia> 学生生活> 学生センター> SSIC)

【窓口】学生センター 2号館1階

■外国人留学生への就職支援プログラム

キャリアセンターでは、日本での就職を希望しているものの、具体的な時期や進め方が分からず不安を抱えている外国人留学生をサポートしています。

就職活動を始めるうえで必要な基礎知識から、エントリーシートの作成や面接対策といった実践的なサポートまで、一人ひとりに寄り添った就職支援を提供していますので、是非キャリアセンター職員にご相談ください。

その他、キャリアセンターでは以下のお役立ち情報も公開していますので、是非ご覧ください。

[上智大学外国人留学生のための就職活動ガイドブック](#)
[日本で就職したい留学生のための情報\(大学院生用\)](#)

【窓口】キャリアセンター 2号館1階

(2)学生・教職員向け

1. キャンパス生活 – 学内施設、サービス –

■祈禱室

学生や教職員が祈りを捧げるための部屋をキャンパス内(11号館1階108室)に開設しています。希望者は下記学生センター窓口で申請書を記入のうえ、使用許可を受けてから利用できます。利用に関する案内は、下記WEBサイトでご確認ください。

[祈りの部屋](#)

【窓口】学生センター 2号館1階⑨番窓口



■食事への配慮

本学では多様な食文化や食習慣に対応できるよう、ハラルフードカフェやビーガンメニューを取り入れた食堂、お弁当の販売を行っています。また日替わりで複数のキッチンカーが来校し、さまざまなジャンルの食事を利用することが可能です。1週間ごとのメニューは、FIND SOPHIAから確認することができます。

[TODAY'S MENU](#)

6. 障害・健康

6-1. 障害・健康に関する本学の歩み・取り組み

(1)学生向け

1. 教育・研究

■障がいのある学生の修学支援

上智大学は、“For Others, With Others”を教育精神として掲げています。私たちは、存在そのものが善であり、人間としての尊厳において平等であると考えています。また、全ての学生がその能力を最大限に生かせるように成長を続け、他者のために他者とともに生きる人となることを目指しています。

このような本学の理念に加えて、2006年に国連総会で採択された「障害者の権利に関する条約」に基づき、障がいのある学生に対する不当な差別的取り扱いを無くし、学生が安心して学習や研究を進めることができるよう、学生本人と大学が話し合い、上智大学として可能な合理的配慮(reasonable accommodation)を提供します。

また、全ての学生が障がいについて理解を深め、適切な理解のもと相手の視点に立った行動を実践し、ともに共生社会を実現していくことを目指します。

(出所:基本理念「上智大学障がいのある学生の修学支援に関する基本方針」)



● 修学上の合理的配慮の提供

障がいによる修学上の障壁を取り除き、学生が安心して学習や研究を進めることができるよう、学生本人と建設的対話を行いながら、大学として可能な合理的配慮を提供します。学期ごとに申請受付期限が定められており、手続きには相応の期間がかかります。支援や配慮を希望する方はお早めにご相談ください。

本学の障がい学生支援については下記WEBサイトをご参照ください。

[障がい学生支援について](#)

教職員は、マニュアルデータベースに掲載されている「障がいのある学生の修学支援 教職員の手引き」をご確認ください。

【窓口】ウェルネスセンター 障がい学生支援担当

✉with_others-co@sophia.ac.jp

■ユニバーサルマナー検定

2022年度より新入生全員を対象にユニバーサルマナー検定3級のE-learningを受験していただいています。このオンデマンド講座で学んだ、実践的アイデアや多様な方々に向き合う姿勢を、大学生活だけでなく、普段の生活や卒業後の社会生活で生かしてくださることを期待しています。

2. キャンパス生活

■障害のある学生のキャリア支援

キャリアセンターでは、障害のある学生のためのキャリア支援として、専門相談員による個別相談を実施しております。併せて、WEBキャリアセンターにも関連の情報を掲載しておりますので、ご活用ください。

[多様な働き方について\(障がいのある方\) - career-co ページ！](#)

【窓口】キャリアセンター 2号館1階

■上智大学健康相談ダイヤル

学生の皆さんの心身の健康をサポートするために本学専用ダイヤル(24時間・年中無休・通話料無料)を開設しています。(委託先:ティーパック株式会社)

医師・保健師・看護師等の有資格者が、健康・医療・メンタルヘルス等のご相談や医療機関情報の提供に応じます。

利用対象者:本学学生及びその保証人

利用案内の詳細はMy Sophiaからご確認ください。

(My Sophia>学生生活>ウェルネスセンター>上智大学健康相談ダイヤル)



(2)学生・教職員向け

1. サービス

■学内の健康相談

ウェルネスセンター(健康支援)で、医師や看護師による健康相談や応急処置、医療機関の紹介等を行っています。健康についての悩みや疑問などがあるときも気軽にご利用ください。

【窓口】ウェルネスセンター(健康支援) ホフマン・ホール2階
月～金 9:30～11:30、12:30～17:00
※応急処置などの緊急対応は11:30～12:30も行っています。

■婦人科相談

2025年度から、女性医師による婦人科相談を実施しています。日常生活の中で感じる、婦人科に関する不安や体調の悩み、誰かに相談しにくいと感じていること、病院を受診すべきか悩んでいるなど、お気軽にご相談いただけます。

【窓口】ウェルネスセンター(健康支援) ホフマンホール2階
月曜日(月2回:授業実施月のみ) 12:30～16:30
※予約制(1回30分程度)

2. キャンパス改善

■学内におけるユニバーサルデザイン

環境・情報・意識の面でのバリアフリー化を目標に、学内にもユニバーサルデザインが採用されています。

設備の一例

- キャンパスサイン(案内板):高さや配色、文字の大きさへ配慮
- キャンパスマップ:視認性に配慮し、多言語に対応

[バリアフリー情報を掲載した四谷キャンパスアクセシビリティマップ](#)

- 9号館アクティブ・コモンズ屋上庭園(通称9庭):すべての人が無理のない姿勢でガーデニングを楽しむことができるユニバーサルデザイン花壇を導入

ここでご紹介した以外にも、エレベーター移動を必要とする人を優先する「ゆずりあいエレベーター」の導入や学内メインストリートの段差解消、あらゆる箇所におけるスペース創出の工夫を施すなど館内の整備を進めています。



7. 育児・介護

7-1. 育児・介護に関する本学の制度・取り組み

(1) 学生向け

1. キャンパス生活

■学内託児室

「子育てをしながら安心して学び、研究できる大学」を目指し、(株)小学館アカデミーと提携して、託児室を開設しています。

利用を希望する学生は利用希望日の1ヶ月前までに学生センターで手続きを行ってください。授業及び授業に準じた時間のために利用できます(利用料金の補助制度あり)。

[学内託児室の利用](#)

【窓口】学生センター 2号館1階 ⑦カウンター

(2) 教職員向け

本学には仕事(ワーク)と出産・育児や介護などの私生活(ライフ)の両立を支援するための制度があります。以下のページでは制度についてまとめています。

[上智学院HP:福利厚生](#)

[ダイバーシティ&サステナビリティ推進室HP:育児・介護、ワーク・イン・ライフ](#)

出産・育児に対する制度・取り組み一例

- 配偶者出産特別休暇
- 育児時間
- 育児休業
- 育児短時間勤務
- 学会等における託児サービス補助
- 事業所内託児所
- 妊娠中及び出産後の教職員の健康管理に関する制度
- ベビーシッター割引券利用補助制度
- 看護等休暇

※2025年(令和7年)10月1日の法改正により、利用しやすい制度に改正されました。

くわしくは[こちら](#)をご確認ください。

介護に対する本学の制度・取り組み一例

- 介護休暇
- 介護短時間勤務
- 介護休業
- 介護サービス利用補助



その他の制度・取り組み一例

● 研究員支援制度

上智学院では2012年度より本学の研究者が出産・育児・介護などを理由に研究を断念することなく、ワーク・イン・ライフを保ちながらキャリア形成を継続して公平な競争に参加できるよう、本制度を運用しています。男性研究者にも制度が浸透しており、性別や研究分野による隔たりなく全学的に利用されています。また、本制度を利用する教員が研究支援員のロールモデルやメンターとしての役割も担っており、研究支援員の育成といった波及効果も生まれています。制度の活用に関する詳細は、Sophia掲示板をご確認ください。

【窓口】研究支援員担当

8. 世代

8-1. 世代に関する本学の制度・取り組み

(1) 学生・教職員向け

1. 活動・イベント

■ダイバーシティ・サステナビリティ推進室における学生職員制度

本学では2021年より、学生をダイバーシティ・サステナビリティ推進室の職員として採用しています。学生職員は学生ならではの視点や柔軟な発想力を活かし、キャンパス環境の改善や広報活動、イベント企画・運営など大学運営のさまざまな業務に従事しています。

学生職員による取り組みは、大学公式HPやFIND SOPHIA、各部署のHPなどに掲載されていますので、是非ご覧ください。

なお、募集に関する詳細は、My Sophiaに掲載されます。応募を検討される学生は、My Sophiaからお知らせをご確認ください。

■上智学生記者クラブ通信Sophia topics

在校生向けメディア「FIND SOPHIA」内の「Sophia Topics」は、学生記者が記事の企画・取材・執筆を行い、職員と協力してサイトを運営しています。

既に在学生の皆さまは見たことがあるかと思いますが、実は高校生や保護者にも広く読まれ、大学の情報を広く届ける役割を果たしています。

記者を志望する学生は、学生センターにお問い合わせください。

【窓口】学生センター 2号館1階



■All Sophians' Festival(ASF)

「上智大学ソフィア会」(同窓会)では卒業生と母校とのつながりを深めるため、毎年5月にホームカミングデーイベントとして「All Sophians' Festival(ASF)」を開催しています。卒業生の他に在学生(ソフィア祭実行委員会・上智大学放送研究会)もメンバーとして参画し、実行委員の手で企画・運営されるソフィア会の最大イベントです。

ASFは卒業生や在学生、教職員、家族、地域の方々に広く開かれており、記念ミサ、講演会、ステージ企画、模擬店に加え、各教室では学部学科のクラス会やクラブ・サークルOBOG会など100を超える団体の総会や懇親会が開催されるなど多彩な催しが行われます。

近年はオンライン配信企画も実施され、地方や海外のソフィアンとつながる機会となっています。

本学の教職員で、実行委員としての参加を希望される方は、[上智大学ソフィア会公式HP](#)にて毎年1月頃に掲載されるお知らせをご確認ください。

9. DEI&Bに関する横断的な取り組み

(1)学生・教職員向け

1. 活動・イベント

■ダイバーシティに関する研修や意識啓発のイベント

ダイバーシティ促進を目的としたゲストスピーカーの登壇や映画上映など、学内で研修や意識啓発イベントを実施しています。さまざまな分野の当事者や専門家の意見を聞き、多角的な視点からダイバーシティの重要性を学ぶ機会を提供しています。

■ソフィア・ダイバーシティ・ウィークの開催

2017年より毎年11月25日の「女性に対する暴力撤廃デー」から12月10日の「世界人権デー」までの期間を「ソフィア・ダイバーシティ・ウィーク」と定め、学生・教職員を対象に、展示やワークショップ、講演会など多様なイベントを実施しています。

本イベントは、ダイバーシティ・サステナビリティ推進室が主催、学生実行委員会が共催団体となり、学生教職協働で企画・運営を行っています。

学生実行委員のメンバー募集に関しては、SNSで発信していますので、興味のある方は詳細をご確認のうえ、ご入会ください。

[Instagram](#)

【窓口】ダイバーシティ・サステナビリティ推進室
diversity-sustainability-co@sophia.ac.jp



2. その他取り組み

学校法人上智学院はいかなるハラスメントをも禁止し、すべての構成員の人格を尊重します。ハラスメントが人権侵害や性差別につながることを重く受け止め、安全で公正な教育・研究・学生生活・就業環境を保障します。学院に所属する教職員・学生等はガイドラインを遵守し、ハラスメント防止と、万一発生した場合の迅速かつ適切な対応に努めなければなりません。

以下のサイトでは本学のハラスメントに対する基本方針やハラスメント防止の啓発活動などを確認することができます。

[ガイドライン](#)

[パンフレット「ハラスメントのないキャンパスを目指して」](#)

※ガイドラインについてわかりやすく説明しています。

10. 巻末

10-1. 用語・マーク集

(1)性的指向およびジェンダーアイデンティティの多様性について

■LGBTQ+とは

性的マイノリティを表す言葉の一つで、以下の頭文字からなっています。

- L(レズビアン、女性同性愛者)
- G(ゲイ、男性同性愛者)
- B(バイセクシュアル、両性愛者)
- T(トランスジェンダー、身体や戸籍上の性別や、その性別に期待されるあり方とは異なる性別で生きている人・生きたい人)
- Q(規範的な性のあり方以外のセクシュアリティを表す“クィア”、自らの性のあり方について特定の枠に属さない人、わからない人、決めたくない人。典型的な男性・女性ではないと感じる人を表す“クエスチョニング”)

末尾についている「+」は、上記に分類できない多様な性のあり方や価値観を表しています。

■Ally(アライ)とは

英語で「盟友、味方、同盟者」といった意味で、LGBTQ+を支援したり、理解者として共に行動を起こしたりする人々のことです。

■SOGI(ソジ)／SOGIE(ソジー)／SOGIESC(ソジエスク)

「性のあり方」の構成要素である、

- 性的指向(Sexual Orientation)
- 性自認(Gender Identity)
- 性表現(Gender Expression)
- 身体の性的特徴(Sex Characteristics)

の4つの要素の頭文字をそれぞれ組み合わせた言葉で、少数・多数に関係なく、誰もがそれぞれのセクシュアリティを持っているという考え方に基づく概念です。



《性について考えるうえで、大切なこと》

各用語について説明しましたが、“性はグラデーション”とも表現されるように、「性の在り方」はくっきりと分類できるものではありません。単に「男性」「女性」ではなく、人それぞれの認識や指向、表現方法があることを、理解するのが重要です。

また、本人の同意なしに、その人の「性の在り方」を第三者に暴露(アウティング)しないことも大切です。アウティングは、無意識のうちに起こしているケースもあります。自身の発言や行動がアウティングに繋がっていないか、迷ったときは一度立ち止まって考えてみましょう。
(出典:[TOKYO RAINBOW PRIDE](#))

(2)障害の有無にかかわらず相互に人格と個性を尊重するために

■合理的配慮とは

「障害者が他の者と平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう」と定義されています。(「障害者の権利に関する条約」第2条より)

■バリアフリーとは

バリアフリーとは、生活の中で不便を感じることを、様々な活動をしようとするときに障壁になっているバリアをなくす(フリーにする)ことです。

バリアフリーという言葉は、もともとは建築用語として、物理的なバリア(障壁)の除去という意味で使われてきました。しかし、バリアには物理的なものに加え、制度面や文化・情報面、意識上のバリアも存在します。

そのため、現在では障害のある人や高齢者だけでなく、あらゆる人の社会参加を困難にしている全ての分野でのバリア(障壁)の除去という意味で用いられています。

(引用:[政府広報オンライン](#))

《どちらを使っていますか？「障害」と「障がい」》

昨今、様々な主体がそれぞれの考えに基づいて、「障害」あるいは「障がい」の表記を用いています。学生や教職員の皆さまも、どちらの表記をすべきか、判断に迷う方も多いと思います。

学内における表記も様々で、既存の方針や宣言などは、定められた表記に従って記載する場合があります。

そうした場合を除き、上智学院ダイバーシティ・サステナビリティ推進室においては、情報アクセシビリティ※を担保する観点からも、「障害」と表記することを推奨しています。

それは、WEB上で「障がい」と表記した場合に、音声ブラウザで読み上げると“さわりがい”と誤読されてしまうことがあるからです。

※身体の状態や能力の違いによらず、いかなる利用者でも商品やサービスを利用できること



■障害者に関するシンボルマーク・ピクトグラム集

学内でも、建物の入り口やトイレなど、様々な場面で以下のようなマークを目にすることがあると思います。ここに記載されているものはほんの一部ですが、誰もが過ごしやすいキャンパスづくりに向けて、それぞれのマークがあらわす意味を理解しておきましょう。

～シンボルマーク～

 	障害者のための 国際シンボルマーク 車いす使用者に限らず、障害のあるすべての方が利用できる建物、施設であることを明確に表すための世界共通のシンボルマーク ※ピクトグラムでも同様の意味を表す		視覚障害者のための 国際シンボルマーク 視覚に障害のある人のための世界共通マーク 視覚障害者の安全やバリアフリーを考慮した建物、設備、機器などに付けられる
	耳マーク 聴覚に障害がある(聞こえない・聞こえにくい)ことを表すと共に、聴覚障害者へ配慮した対応ができることを表すマーク		ヘルプマーク 外見から分からなくても、周囲の人に配慮を必要としていることを知らせるためのマーク



	オストメイト用設備／オストメイトを示すマーク オストメイト(人工肛門・人工膀胱を造設している方)が使用できる設備であること、およびオストメイトであることを表すマーク ※ピクトグラムでも同様の意味を表す		ハート・プラスマーク 身体内部(心臓、呼吸機能、腎臓、膀胱・直腸、小腸、肝臓、免疫機能)に障害があることを表すマーク。
---	--	---	--

～ピクトグラム～

 	授乳室 (上:女性用、下:男女共用)		高齢者優先設備
	介助用ベッド		内部障害のある人優先設備
	カームダウン・クールダウン		着替え台

(参考: [内閣府](#)、[国土交通省](#))



《「心のバリアフリー」とコミュニケーションのコツ》

バリアフリーについては先に解説しましたが、昨今耳にすることの多い「心のバリアフリー」とはどのようなことを表すのでしょうか。

難しく考える必要はありません。バリアを感じている方の身になって考え、行動を起こす。それが「心のバリアフリー」です。

車椅子を使用している方が学内の段差に困っていたら…。

2号館のエレベーターに並んでいる際に杖をついている方が待っていたら…。

災害が起きた際に、日本語の案内や表示がわからず、状況理解に困っている外国人留学生がいたら…。

こうした状況に出くわしたら、あなたはどうしますか。

まずは勝手な思い込みや判断をせず、相手とコミュニケーションをとってみましょう。「なにが私にできることはありますか？」と、その人に合った向き合い方を心掛けることが重要です。そのうえで、あなたにできることを考え、もし自分だけで対応することが難しければ、周囲に協力を求めましょう。

また、必ずしも全員がお手伝いや配慮を必要しているとは限りません。意思疎通をしてみても対応が必要なければ、見守ることも大切です。

さらには、障害と同じ文脈で出てくることも多い「心のバリアフリー」ですが、本ハンドブックで紹介したカテゴリーを含め、DEI&Bを推進するためには誰もが全ての人に対して持つべき意識です。

一人ひとりが心のバリアフリーを実践し、上智大学を互いを尊重し合える場所にしていきましょう。

10-2. お問い合わせ窓口一覧

(1)ジェンダー、LGBTQ+に関わる問い合わせ

- 学生センター(2号館1階 03-3238-3525)
- グローバル教育センター(2号館1階 03-3238-3521)
- 留学カウンセリング(Language Learning Commons(LLC) (6号館1階))
詳細は[こちら](#)をご確認ください。
- キャリアセンター(2号館1階 03-3238-3581)
- ウェルネスセンター(健康支援) (ホフマン・ホール2階 03-3238-3394)
- ダイバーシティ・サステナビリティ推進室
- e-mail:diversity-sustainability-co@sophia.ac.jp



(2)多文化共生に関わる問い合わせ

- グローバル教育センター(2号館1階 03-3238-3521)
 - 上智大学からの留学(交換、短期など)、学内の国際交流など
- 学生センター(2号館1階 03-3238-3525)
- 学事センター学籍担当 (2号館1階 03-3238-3519)
- キャリアセンター(2号館1階 03-3238-3581)
- 言語教育研究センター (事務室 03-3238-3699)
 - LLC(6号館1階 03-3238-4094)

(3)障害・健康に関わる問い合わせ

- ウェルネスセンター(健康支援) (ホフマン・ホール2階 03-3238-3394)
 - e-mail:health.cs-co@sophia.ac.jp
- ウェルネスセンター障がい学生支援担当
 - e-mail:with.others-co@sophia.ac.jp
- ダイバーシティ・サステナビリティ推進室
 - e-mail:diversity-sustainability-co@sophia.ac.jp
- 人事グループ
 - ソフィア リフレッシュルーム担当 e-mail:refreshroom-co@sophia.ac.jp

(4)育児・介護に関わる問い合わせ

- 人事グループ 03-3238-3192
- ダイバーシティ・サステナビリティ推進室
 - e-mail:research-assist-co@sophia.ac.jp

(5)世代に関わる問い合わせ

- ダイバーシティ・サステナビリティ推進室
 - e-mail:diversity-sustainability-co@sophia.ac.jp
- 上智大学ソフィア会事務局
 - e-mail:info@sophiakai.gr.jp

(6)ハラスメント相談

■学内相談窓口

学内における相談は、窓口、電話およびWebにて申込みが可能です。詳細は、本学サイト「[ハラスメントの相談申込と質問の受付](#)」をご参照ください。

■学外相談窓口

学外への相談は、専用ホットライン(電話)、Web、書面またはEmailにより申込みが可能です。詳細は、専用サイト「[学校法人上智学院ハラスメント外部相談窓口](#)」をご参照ください。



(7)心身に関する相談

- ウェルネスセンター(健康支援) (ホフマン・ホール2階 03-3238-3394)
- カウンセリングサービス (10号館3階 03-3238-3559)

(8)その他

- 「なんでも相談窓口」(学生のみ)
- [なんでも相談 申込フォーム](#)からご相談内容をご入力ください

10-3. 学内の情報に関する資料、WEBサイト

(1)[ソフィアーズ・ガイド\(PC版\)](#) [ソフィアーズ・ガイド\(スマホ版\)](#)

(2)ダイバーシティ・サステナビリティ推進室公式HP

それぞれのテーマに特化したページをご用意しています。

- [上智大学×ダイバーシティ](#)
- [上智大学×サステナビリティ\(SDGs\)](#)

